2025/7/27 「重く感じる物語」 ルカ 24:6-12 信仰告白、生活綱領 さ 73、せ 472(489)

夏期学校が恵みのうちに行われました。境内は、夜明け前から蝉時雨が響きわたってすっかり夏です。お盆が近づけば、日本人は誰でも戦争を思い出します。いつまでも、この平和な社会を次の世代に残していくことができるよう祈らずにおれません。

重く感じる物語

忠実に、今朝の箇所を開くとき、そこに復活の証拠として示されたのは、空っぽな墓穴だけであったことがわかります。そして、天使の「思い出しなさい」という、主イエスの「言葉」だけが、救いの入り口となっていることがわかります。この箇所は、本来は重く、暗闇の中で、途方にくれた人々が、描かれているのです。

今年の夏、久しぶりに『火垂るの墓』がテレビで放送されるそうです。文庫さんで勧められて、息子が『はだしのゲン』を借りてきました。どちらも戦争の重い物語です。

物語に共感できない世代が話題になり、はだしのゲンを「時代に合わない」として学校図書館から排除しようとする動きがニュースになりました。

人間は、重く感じる物語が苦手なのです。途方にくれた状態から、逃げ出そうとします。危険と死を避けようとする本能と言えるでしょう。しかし聖書は、そのような生き方を「滅びに通じる道」と呼びました。そして、狭い門から入りなさい、と命じました。

でも、自分から、袋小路を選ぶ人など殆どいません。清太も節子も、ゲンも進次も君江も、戦争によって、どんどん追い込まれていったのです。だから戦争反対、というのが一般的な教訓でしょう。それに対して、聖書は少し違います。あえて、狭い門に入りなさいと語るのです。それは、その先で、神様が救いの手を差し伸べてくださることを、体験するからです。悲劇の中で、神様が共におられることを知る人は、最も幸いな人です。今朝の箇所でも、途方にくれた婦人たちの、すぐそばに、天使たちが現れました。それは死の壁さえも打ち破る、力強い救いのみ業なのです。

復活の信仰

フランキンセンス（没薬）など、樹液の香りは、「ロングノート」と呼ばれ、重い香りですが持続性に優れ、鎮静作用、リラックス効果をもたらすそうです。復活の信仰は、理不尽さと、死と、恐れという、解決策の見えない中で、新しいはじまりを、思い起こす信仰です。暗闇の中で、意味もわからず置き去りにされたような中で、天使の言葉をそれでも信じるのが、復活の信仰です。なんという世の中の常識では考えられない信仰でしょう。当の本人たちも、仲間である弟子たちにさえ、しどろもどろでしか、自分の思いを語れませんでした。でも、その状態でも、大丈夫でした。彼女たちの姿は、私たちに、誰よりも雄弁に復活の信仰を証ししています。復活の主は、そこにはまだいません。しかし、不思議な回復のわざは既に始まっています。目の前の現実は最悪でしたが、主のみ業は確実に進んでいました。復活の信仰を、私たちも握ってゆきましょう。